

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第114集

戸坂遺跡群

K U Y O U Z U K A

# 供養塚遺跡Ⅱ

長野県佐久市新子田供養塚遺跡Ⅱ発掘調査報告書

2004.3

財団法人 医療経済研究・社会保険福祉協会

佐久市教育委員会

## 例 言

- 1 本書は、財団法人医療経済研究・社会福祉保険協会が行うグループホーム建設事業に伴う、埋蔵文化財発掘調査の調査報告書である。
- 2 調査委託者 財団法人医療経済研究・社会福祉協会
- 3 調査受託者 佐久市教育委員会 高柳 勉
- 4 遺跡名及び発掘調査所在地積  
戸坂遺跡群 供養塚遺跡Ⅱ（TKHⅡ）  
佐久市大字新子田字供養塚892-2
- 5 調査期間及び面積  
調査面積 533㎡  
平成15年9月3日～平成15年9月24日（現場作業）  
平成15年9月21日～平成16年3月19日（整理作業）
- 6 調査担当者 出澤 力 佐々木 宗昭
- 7 本書の執筆・編集は出澤が行った。
- 8 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

## 凡 例

- 1 遺構の名称 供養塚遺跡Ⅱ（TKHⅡ）
- 2 遺構の略称は、以下の通りである。  
竪穴住居址-H 堀立柱建物址-F 土坑-D ビットーP
- 3 縮尺は、竪穴住居址・堀立柱建物址・土坑-1/80、遺物-1/4とし、異なるものは図中に明記した
- 4 遺構の海拔標高は、水系標高を「標高」として記している。
- 5 土層の色調は、1988年度版「新版 標準土色帖」による。
- 6 写真図版中の遺物の縮尺は挿図と概ね同じであるが、それ以外のものについては図版中に明記してある。また、写真図版と挿図の№については、同一である。
- 7 住居址の面積は床面積（住居址下端範囲）を測定し、カマド部分は測定値より除外している。堀立柱建物址は、四隅の柱穴に囲まれた範囲を測定する。
- 8 挿図中における土器断面の塗りつぶし表現は須恵器断面を意味する。また、挿図中におけるスクリーントーンは以下のことを意味する。

機 土



堀 山



黒色処理



# 目 次

例 言  
凡 例

## 第1章 発掘調査の概要

第1節 調査の経緯	(1)
第2節 調査組織	(2)
第3節 調査日誌	(2)
第4節 遺跡の立地と歴史的環境	(2)
第5節 調査の概要と基本順序	(4)

## 第2章 遺構と遺物

第1節 竪穴住居址	(9)
第2節 堀立柱建物址	(9)
第3節 土坑	(13)
第4節 ビット	(14)

遺構一覧表・遺物観察表	(15)
-------------	------

第3章 まとめ	(16)
---------	------

写真図版

奥付

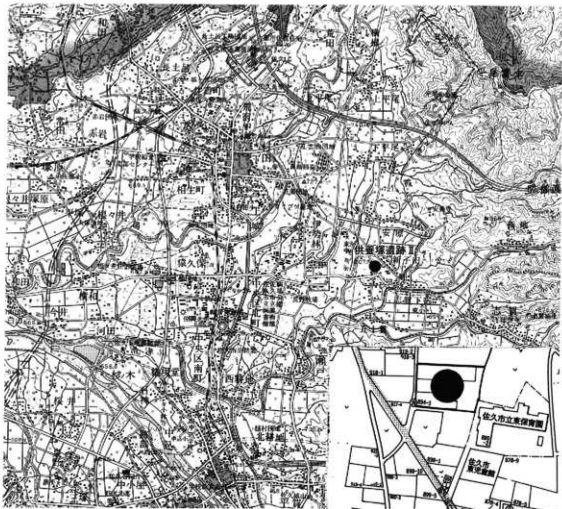
# 第1章 発掘調査の概要

## 第1節 調査の経緯

戸坂遺跡群供養塚遺跡Ⅱは佐久市大字新子田字供養塚に所在する。当地は湯川東岸に接する浅間軽石流堆積物による台地上の東端に立地し、標高は706 m内外を測る。

周辺では本遺跡の他にも発掘調査が行われており、本遺跡に隣接する供養塚遺跡、やや南東側に位置する四ツ塚遺跡Ⅰ・Ⅱ、四ツ塚古墳の他、北東では権現平遺跡、池端城跡、北西で高師町遺跡と言った遺跡が調査をされている。

今回、財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会により当地においてグループホーム建設事業の計画があり、試掘調査が行われた。結果、竪穴住居址等の遺構が確認され、建造物に掛かる部分の遺構については破壊が余儀なくされたことから、その部分について記録保存を目的とした発掘調査が行われることとなった。



第1図 供養塚遺跡Ⅱ 位置図 (1:50,000・1:5,000)

## 第2節 調査組織

◎発掘調査受託者 佐久市教育委員会

教育長 高柳 勉

◎事務局

教育次長 赤羽根寿文

文化財課長 嶋崎 節夫

文化財係長 高村 博文

文化財係 林 幸彦、三石 宗一、須藤 隆司、小林 眞寿、富沢 一明

上原 学、赤羽根太郎、山澤 力

◎調査体制

調査担当者 山澤 力

調査主任 佐々木宗昭

調査員 阿部 和人、市川 昭、岩崎 重子、小幡 弘子、柏木 義雄

加藤 美雪、木内 節夫、桜井 牧子、佐藤志げ子、細竹ミスズ

## 第3節 調査日誌

平成15年9月3日 重機による表土削平を行う。器材搬入を行う。

9月5日 現場作業開始。調査区内の精査を行う。

・H1号竪穴住居址、D1号七坑、F1・2号竪立柱建物址、ピット群等の調査を行う。

9月18日 現場での作業を終了し、器材を撤収する。

9月21日 室内作業開始。出土遺物の洗浄。

9月24日 重機による現場の埋め戻し作業が終了する。

9月24日～平成16年3月19日

室内整理作業。遺物洗浄、注記、接合、図面修正、版下作成、報告書編集を行う。

## 第4節 遺跡の立地と歴史的環境

供養塚遺跡Ⅱは湯川左岸に展開する軽石流堆積物により形作られた平坦な台地上に存在する。台地にはいわゆる田切り地形も見ることが出来、田切りの帯状台地上には古墳時代以来の住居址等遺跡の分布が見られる。

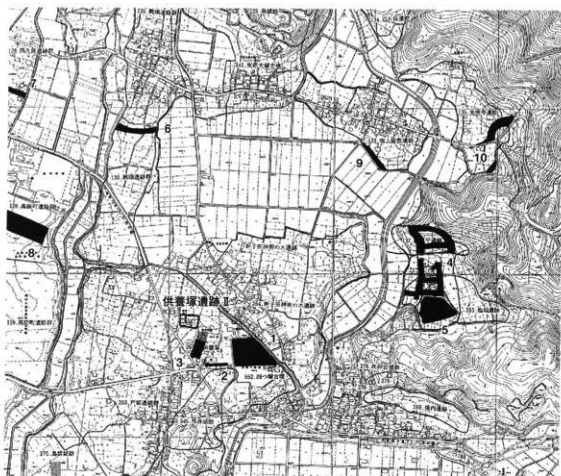
本遺跡は台地上に分布する遺跡群のひとつ戸坂遺跡群内にある。遺跡群周辺には他にも遺跡が認められ発掘調査も行われており、この台地上における集落の様相、変遷などについて知ることが出来る。ここでは、本遺跡周辺の遺跡分布について図で示し、発掘調査が行われた遺跡について述べ本遺跡の歴史的環境を概観したい。

戸坂遺跡群の東方、台地の平坦部と佐久の東部山地から続く丘陵部の境にある権現平・池端遺跡、池端城跡では縄文・古墳・奈良・平安時代の住居址、土坑が発見され、また中世の竪穴

状遺構、土坑、ピット、井戸址が認められている。丘陵部においては、縄文時代ではそこを生活空間として、また中世になるとその地形を利用し山城などが造られる事が窺える。

本遺跡の北西には田切りの帯状台地上に展開する池畑遺跡、西御堂遺跡、高師町遺跡Ⅱがある。池畑遺跡では弥生時代末～古墳時代初頭と思われる住居址が認められ、その他の遺跡では古墳時代から奈良・平安時代、中世に至る遺構が確認される。本遺跡から北東にあたる宿上屋敷遺跡、下川原遺跡・光明寺遺跡においても古墳時代～中世にあたる遺構があり、台地上の平地部では弥生末から中世に渡り集落が営まれていたことが分かった。

戸坂遺跡群内では本遺跡に先立ち、隣接する四ツ塚遺跡Ⅰ・Ⅱ、供養塚遺跡Ⅰが調査された。発掘されたのは古墳時代の住居址、奈良時代の住居址、堀立柱建物址、溝状遺構中世の溝状遺構、そしてその大半を攪乱されていたが古墳Ⅰ基である。戸坂遺跡群内で発掘された遺構は周辺の台地上に存在する遺跡の様相と合致し、特に、奈良時代集落が当地周辺に展開する事を示している。

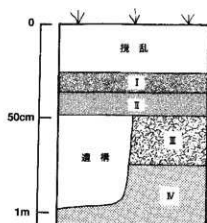


第2図 供養塚遺跡Ⅱ周辺遺跡分布図 (1:10,000)

No.	遺跡名	所在地	調査年度	備考
1	四ツ塚Ⅰ	新子田	H10	II5軒(奈良)・壑穴状遺構2軒・F1軒・土坑10基・溝2条・古墳1基
2	四ツ塚Ⅱ	新子田	H11	H2軒(古墳)・F1軒
3	供養塚Ⅰ	新子田	H10	II2軒(奈良)・F1軒・溝1条
4	権現平・池端	新子田	H16	H23軒(縄・古・平)・壑穴状遺構10軒・F1軒・D18基・溝2条・井戸址2基
5	池端城跡	新子田	H7	壑穴状遺構56軒(中世)・II6軒(縄・古・平)・D28基・溝5条・井戸址1基
6	池畑	安原	S60	H2軒(弥生~古墳)・溝2条・D1基
7	西御堂	安原	S60	D2基
8	高師町Ⅱ	新子田	H7-8	H24軒(平安)・壑穴状遺構5軒(中世)・F19軒・D50基・溝7条
9	宿上尿敷	安原	S62	H6軒(古・平)・D9基・特殊遺構3基
10	下河原・光明寺	安原	S61	壑穴状遺構1軒(中世)・D3基・溝3条・井戸址2基

周辺調査遺跡一覧表

## 第5節 調査の概要と基本層序



本遺跡は、前述の通り湯川左岸に展開する台地上に存在し、標高は706m内外を測る。本調査における基本層序を柱状図に表した。地表からⅠ層まではかつての建築物による攪乱で、一部では攪乱は地表深くまで及ぶ。Ⅰ層は削平を受け僅かに残る表土層である。Ⅱ層は表土とロームに挟まれた褐色土層、Ⅲ・Ⅳはローム層である。主に遺構はⅢ層上面から検出された。

- Ⅰ層 黒褐色土(10YR5/3) 自然作業、少根、礫石を含む。  
 Ⅱ層 褐色土(10YR4/4) 厚4cm程度の軽石を多数含む。  
 Ⅲ層 黒褐色土層(10YR5/5) 地中ローム層、部分的に厚4cm程度の軽石を多数含む。  
 Ⅳ層 暗褐色土層(10YR4/6) 地中ローム層、90%程度厚4cm程度の軽石を多数含む。

供養塚遺跡Ⅱ 基本層序柱状図

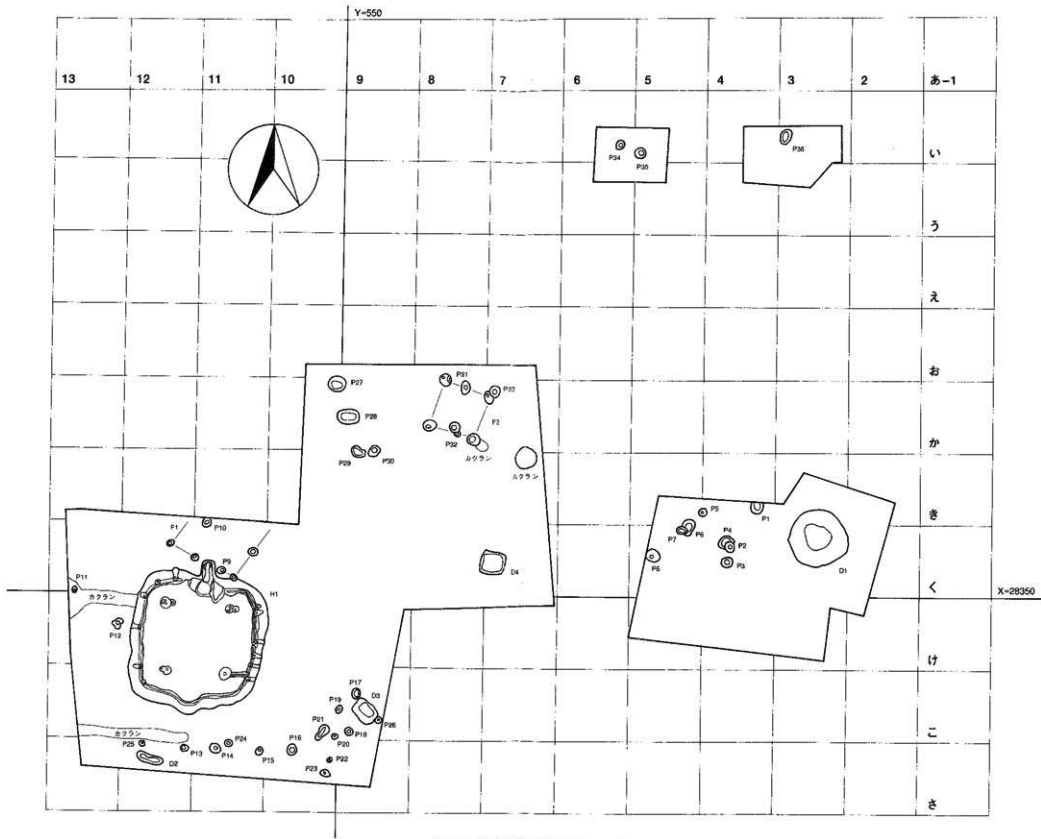
また、今回の調査によって確認された遺構・遺物は以下の通り。

### 遺構

- 壑穴住居址 1軒(奈良時代)                      ○堀立柱建物址 2軒  
 ○土坑 4基    ○ピット 36基

### 遺物

土師器坏・甕、須恵器坏・甕、土製紡錘車、石製品(編物石・砥石・搗臼・紡錘車)



第3図 供養塚遺跡Ⅱ全体図 (1:200)



## 第2章 遺構・遺物

### 第1節 竪穴住居址

#### 1) H1号住居址(第4・5図、図版一・三・四)

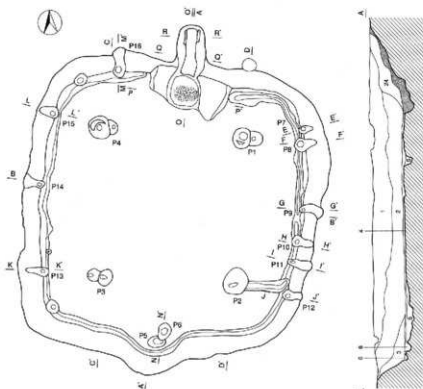
本住居址は調査区く・け・こー11・12グリッドに位置する。F1号堀立柱建物址と重複し新旧関係では本住居址の方が古い。上面に一部攪乱が見られるがほぼ完全なプランを確認し、規模は北壁長583cm、東壁長632cm、西壁長662cm、南壁長566cmでやや南北に長じた方形を呈する。床面積は31.2㎡。カマドを基準とした軸方位はN-6°-Eでほぼ真北を示し、検出面からの壁高は南壁中央で70cmを測った。ピットは16基確認し、うちP1~P4は主柱穴で、P5・6は入り口施設に関連するピットである。P7~16は全て壁際で確認された壁柱の痕で、P9・14は東西の壁のほぼ中央、P7・8・12・15・16は主柱穴の水平、垂直方向にある。また、礎柱P12と主柱穴P2の間には床面を溝状に数cm掘り込んだ間仕切り溝が存在する。覆土は自然堆積で周溝がある。貼床はやや締まり、掘り方は住居址中央部をテーブル状に高く残し、その周辺部を掘り込む形が認められた。カマドは北壁中央にあり、長軸長208cm、軸部での幅は194cmを測った。煙道部に芯材である板状の石を認め、残った袖部や崩落層から粘土粒を多く確認することから、このカマドは地山まで掘り込まれた後芯材となる石に粘土などを被覆して構築されたものと考えられる。

遺物は16点を図示した。1~5は須恵器坏である。底部は回転ヘラキリ、1・4はヘラによる調整が一部坏体部に及ぶ。6~9は土師器坏で、底部は丸底で6は内外面共にミガキを施し内面は黒色処理され、7~9は内面に放射状の暗文が見られる。6は入口施設部分の壁付近での出土。10・11は土師器甕。ともに「く」の字型に外反する口縁を持ち、口縁部はヨコナデ体部外面はヘラケズリ、内面にはヘラナデが施される。12は土製の紡錘車で北東コーナーの覆土中からの出土。13・14は砥石。15は石製の紡錘車で住居址中央の床直上から出土。16は摺臼でP4の東脇の床直上で出土した。また、住居址の覆土中、また間仕切り溝の存在する住居址南東部付近の床直上から多くの編物石が発見された。写真図版によって14点の編物石を図示するが、うち17~25の9点が住居址床直上で確認された編物石で、26~30は覆土中から出土した編物石である。紡錘車の存在、多量の編物石の出土はこの住居址に生活した人々によって布などの生産が行われた可能性を示しており、間仕切り溝がある付近がその作業空間として利用されていたのかも知れない。

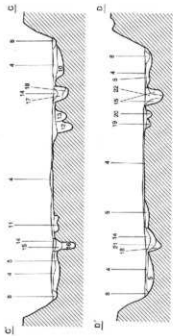
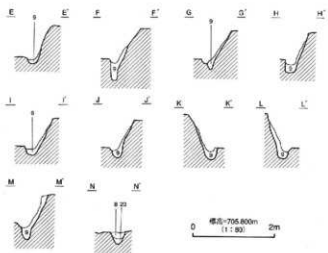
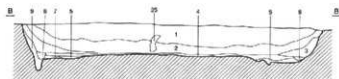
### 第2節 堀立柱建物址

#### 1) F1号堀立柱建物址(第6図 図版二)

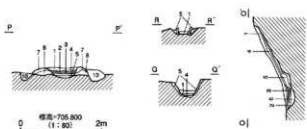
き・くー11・12グリッドに位置する。H1号住居址と重複し、新旧関係では本遺構の方が新しい。北側が調査区外になり全体は明らかではないが側柱式の堀立柱建物址址と思われる。東西2間で430cmを測り、柱間は210cm、126cmを測る。東西を基準とした軸方位はN-30°-Eを示した。柱穴の規模はそれぞれP1で径48×深さ14、P2で32×12、P3で36×28、P4で30×20(cm)だった。柱痕は確認されず、遺物の出土も皆無であった。



- 目 1 上層説明
1. 黒色土(1978/2) ローム・ロームアロウキ多量混入含む。
  2. 黒褐色土(1978/2) ローム・ローム多量混入含む。
  3. 暗褐色土(1978/2) ローム多量混入。ローム多量混入含む。
  4. 褐色土(1978/4) 黒土。暗褐色土。ローム多量混入含む。
  5. 暗褐色土(1978/2) 黒土。暗褐色土。ローム多量混入含む。
  6. 暗褐色土(1978/2) 黒土。暗褐色土。ローム多量混入含む。
  7. 暗褐色土(1978/2) 黒土。暗褐色土。ローム多量混入含む。
  8. 暗褐色土(1978/2) ローム多量混入含む。
  9. 暗褐色土(1978/2) 暗褐色土。暗褐色土。ローム多量混入含む。
  10. 暗褐色土(1978/2) 暗褐色土。暗褐色土。ローム多量混入含む。
  11. 暗褐色土(1978/2) 暗褐色土。暗褐色土。ローム多量混入含む。
  12. 暗褐色土(1978/2) 暗褐色土。暗褐色土。ローム多量混入含む。
  13. 暗褐色土(1978/2) 暗褐色土。暗褐色土。ローム多量混入含む。
  14. 暗褐色土(1978/2) 暗褐色土。暗褐色土。ローム多量混入含む。
  15. 暗褐色土(1978/2) ロームアロウキ多量混入含む。
  16. 暗褐色土(1978/2) ロームアロウキ多量混入含む。
  17. 暗褐色土(1978/2) 暗褐色土。暗褐色土。ローム多量混入含む。
  18. 暗褐色土(1978/2) 暗褐色土。暗褐色土。ローム多量混入含む。
  19. 暗褐色土(1978/2) 暗褐色土。暗褐色土。ローム多量混入含む。
  20. 暗褐色土(1978/2) 暗褐色土。暗褐色土。ローム多量混入含む。
  21. 暗褐色土(1978/2) 暗褐色土。暗褐色土。ローム多量混入含む。
  22. 暗褐色土(1978/2) 暗褐色土。暗褐色土。ローム多量混入含む。
  23. 暗褐色土(1978/2) 暗褐色土。暗褐色土。ローム多量混入含む。
  24. 暗褐色土(1978/2) 暗褐色土。暗褐色土。ローム多量混入含む。
  25. 暗褐色土(1978/2) 暗褐色土。暗褐色土。ローム多量混入含む。

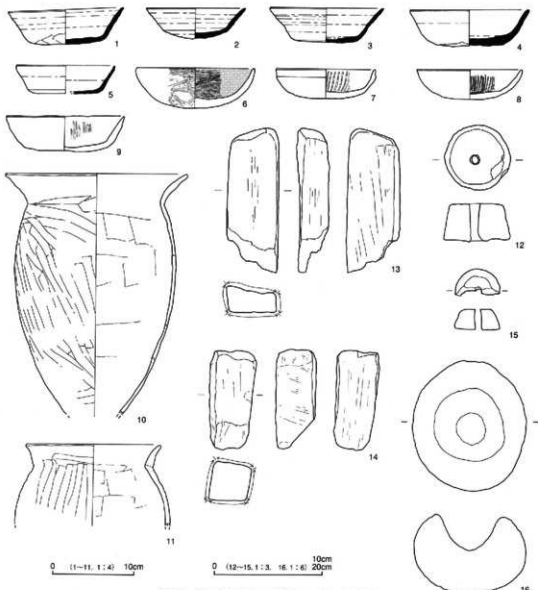


第4図 目1号住居址 実測図



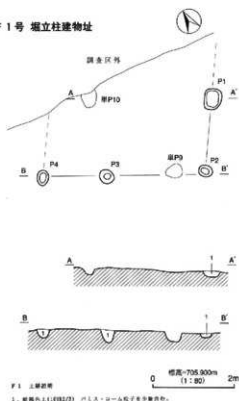
第3カマド 土層説明

1. 黒褐色土(10R3/2) 自然の土アロップを多量に含む。焼土粒子を少量含む。
2. 暗赤褐色土(10R3/4) 焼土粒子・炭・炭化物を含む。
3. 暗赤土(10R4/1) 焼土粒子を多く含む。炭化物を少量含む。
4. 暗赤褐色土(10R3/4) 焼土粒子を多く含む。炭化物を少量含む。
5. 赤褐色土(10R4/1) 焼土アロップを多量に含む。焼土粒子を含む。
6. 深栗褐色土(10R3/2) 焼土粒子・焼土アロップを少量含む。
7. 暗褐色土(10R3/2) 焼土アロップ・炭化物を多く含む。土間土を含む。
8. 濃い黒褐色土(10R4/2) パリス・ローム粒子を多量に含む。焼土アロップを少量含む。
9. 暗赤褐色土(10R3/4) 焼土を含む。焼土粒子を多量に含む。
10. 暗褐色土(10R3/2) 焼土を含む。焼土粒子を多く含む。炭化物を少量含む。



第5図 H1砂住岡址カマドセクション図 出土遺物

### F 1号 堀立柱建物址

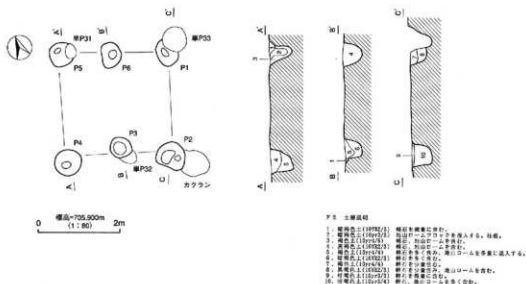


### 2) F 2号 堀立柱建物址 (第6図 図版二)

お・かー7・8グリッドに位置する。P 1と単独ビットP 33が、P 3と単独ビットP 32が、P 5と単独ビットP 31がそれぞれ重複し新旧関係はP 1・5では本遺構が古く、P 3では本遺構の方が新しい。またP 2は攪乱と重複する。南北1間×東西2間の側柱式で、桁行320cm×梁間326cm、桁行柱間68~84cm、梁間柱間186~207cmを測る。長軸方位N-20°-Eとやや東に傾く。柱穴の規模はP 1で径42×深さ40、P 2で73×53、P 3で52×41、P 4で62×55、P 5で57×56、P 6で60×46(cm)である。柱痕がP 5で認められ、面積は10.4㎡。

P 4内から遺物が確認されたが破片のため図示はできない。遺物は土師器の環で、内面に黒色処理を施した物も見られる。H 1号住居址で確認された土師器環と類似しており、本遺構はH 1と同時に営まれたものと考えられる。

### F 2号 堀立柱建物址

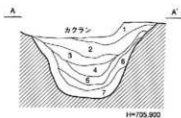
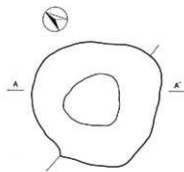


第6図 F1・2号堀立柱建物址 実測図

### 第3節 土坑 (第7図、図版二・四)

本遺跡で確認された土坑は計4基である。その規模等については遺構一覧表に記した。遺物の出土が認められたのはD1・2・4号土坑で、そのうちD2号土坑出土の土師器坏を図示する。H1号住居址で出土した坏とほぼ同時期の所産と見られ、内外面にミガキ、時に内面には放射状の暗文が施されている。D1号土坑は今回確認された土坑の中で最も規模の大きなもので、その深さは遺構確認面から最大で186cmを測る。遺物はこの土坑の覆土の3層までに集中しており、それより下層では確認されなかった。出土遺物は須恵器製の破片と土師器坏破片などで、坏の中には古墳時代後期にあたる破片も見られる。時期判別の難しい破片のみでの遺物出土、また土坑覆土の上層のみで遺物が見られることから遺構の所産時期を正確に知ることはできないが、土坑の埋没過程において古墳時代の遺物が混入される事を考えると、この土坑が作られた時期が古墳時代後期あるいは以前である事は言える。D4号土坑からは須恵器製の破片が出土している。

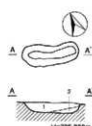
#### D1号土坑



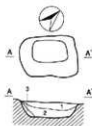
0 (1:80) 2m

#### D1号土坑上層断面

1. 高岡内土(10782/2) 1m以下の野朽を詰め、パリスを敷き込む。
2. 高岡内土(10782/2) 1m以下の野朽を詰め、パリスを敷き込む。また上層は高岡内土ブロックを詰め。
3. 高岡内土(10782/2) 2m以下の野朽を詰め、パリスを敷き込む。
4. 高岡内土(10782/4) 2m以下の野朽を詰め、パリスを敷き込む。
5. 高岡内土(10782/2) 1m以下の野朽を詰め、パリスを敷き込む。また上層は高岡内土ブロックを詰め。
6. 高岡内土(10782/2) 2~3m以下の野朽を詰め、パリスを敷き込む。また上層は高岡内土ブロックを詰め。
7. 高岡内土(10782/2) 10m以下の野朽を詰め、パリスを敷き込む。また上層は高岡内土ブロックを詰め。



#### D2号土坑



#### D3号土坑



#### D4号土坑

#### D1 土層断面

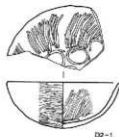
1. 10782/1 パリスを敷き込む。
2. 10782/2 パリスを敷き込む。コアム砂子を敷き込む。

#### D3 土層断面

1. 高岡内土(10782/2) コアム砂子を敷き込む。
2. 高岡内土(10782/2) コアム砂子を敷き込む。パリスを敷き込む。
3. 高岡内土(10782/2) パリスを敷き込む。コアム砂子を敷き込む。

#### D4 土層断面

1. 10784/4 2m以下の野朽を敷き込む。高岡内土を敷き込む。
2. 10782/2 1m以下の野朽を敷き込む。
3. 10784/4 2m以下の野朽を敷き込む。高岡内土を敷き込む。
4. 10782/4 2m以下の野朽を詰め、高岡内土を敷き込む。



第7図 D1~4号土坑 実測図

## 第4節 ビット

今回本遺跡では合計で36基のビットを確認している。それらの規模、検出位置などについての詳細は下記表に記した。ビット内からの出土遺物は僅かであり、その全てが破片資料であるため図示はできなかった。出土している土師器製の胴部破片などについては、H1号住居址と同時期、あるいはそれよりも時期的に新しい土器の特徴を持っている。その他の遺物についても、奈良・平安時代にあたる遺物であると思われる、ビット群の時期もそれと同様と考えられる。

### ○ ビット一覧表

No	位置	形態	径	深	土 説	備 考
1	き-4	円形	56	43	10 yr 2/2 パ、軽微含	
2	く-4	円形	48	36	10 yr 2/3 パ微含	P4を切る
3	く-4	円形	50	20	10 yr 2/3 パ微含	
4	く-4	方形	72	53	10 yr 3/3 パ、ロブ微含	P2に切られる
5	き-4	円形	42	19	10 yr 2/3 パ、軽微含	
6	く-5	不整円形	65	60	10 yr 2/3 ロ含、パ微含	
7	く-5	楕円形	65×38	34	10 yr 2/3 軽含	
8	き・く-5	方形	88×65	63	10 yr 2/2 パ、軽微含	
9	く-11	円形	42×34	29	10 yr 2/3 パ、ロ粒少含	H1を切る
10	く-11	円形	38	17	10 yr 2/3 パ、ロ粒少含	
11	く-13	楕円形	40×29	28	10 yr 2/3 パ、ロ粒微含	土師器製破片出土
12	け-13	不整円形	65×50	22	10 yr 2/3 パ、ロ粒微含	
13	さ-12	方形	32	21	10 yr 2/3 パ、ロ粒微含	
14	さ-11	円形	51	22	10 yr 2/3 パ、ロ粒微含	
15	さ-11	円形	44	21	10 yr 2/3 パ、ロ粒微含	
16	さ-10	円形	58	17	10 yr 2/3 パ、ロ粒微含	
17	こ-9	楕円形	53×44	21	10 yr 2/1 パ少含	
18	こ-9	円形	40	29	10 yr 2/1 パ少含	
19	こ-9・10	円形	33	23	10 yr 2/1 パ少含	土師器製破片出土
20	こ-10	円形	35	18	10 yr 2/3 パ、ロ粒微含	
21	こ-10	楕円形	100×45	21	10 yr 2/3 パ、ロ粒微含	
22	さ-10	円形	16	15	10 yr 2/3 パ、ロ粒微含	
23	さ-10	楕円形	60×40	24	10 yr 2/1 パ少含	
24	さ-11	円形	24	15	10 yr 2/3 パ、ロ粒微含	
25	さ-12	円形	20	18	10 yr 2/3 パ、ロ粒微含	
26	こ-9	円形	38	25	10 yr 2/2 ロ、パ微含	須恵器環破片出土
27	か-10	円形	83	42	10 yr 3/4 地ブ含	土師器・須恵器製破片出土
28	か-9	楕円形	116×65	16	10 yr 3/4 地ブ含	
29	か・き-9	不整円形	70×62	12	10 yr 3/4 地ブ含	
30	か・き-9	円形	57	28	10 yr 3/3 軽微含	
31	お・か-8	楕円形	35×25	55	10 yr 4/4 ロ、軽少含	F2 pitを切る
32	か-8	円形	52	45	10 yr 2/3 軽微含	F2 pitに切られる
33	か-8	円形	60	66	10 yr 3/3 軽多含	F2 pitを切る
34	い-6	円形	20	38	10 yr 2/1 パ少含	
35	い-5	円形	30	22	10 yr 2/1 パ少含	
36	い-3	楕円形	40×28	15	10 yr 2/1 パ少含	

※ パ=パミス 軽=軽石 ロ=ローム 粒=粒子 地=地山 ブ=ブロック

○ 遺構一覧表

竪穴住居址

遺構名	形態	規模 (m <sup>2</sup> ・cm)					深さ	主軸方位	カマド	柱穴 (礎柱)	備考
		面積	北壁	東壁	西壁	南壁					
H 1	方形	31.2	583	632	662	566	70	N-6°-E	北	4 (10)	間仕切り溝がある

堀立柱建物址

遺構名	規模 (cm・m)							面積	長軸方位	備考	
	南北間	東西間	規模	桁行柱間	梁間柱間	P径	P深さ				
F 1	—	2	( )×430	126~210	—	—	30~48	12~28	—	N-30°-E	
F 2	1	2	320×326	68~84	186~207	12~73	40~56	10.4	N-20°-E	土師器破壊片出土	

土坑

遺構名	検出位置	平面形態	規模 (cm)			長軸方位	備考
			長軸長	短軸長	深さ		
D 1	き・く-1	円形	325	—	186	—	須恵器壺・土師器環・甍破片出土
D 2	き-12	楕円形	138	53	25	N-68°-W	土師器坏出土
D 3	こ-9	方形	140	102	38	N-48°-E	
D 4	く-7	方形	131	117	51	N-80°-W	須恵器甍破片出土

○ 遺物観察表

遺構名	No	器種	器形	計測値 (cm・g)				調整・成形		備考		
				口径(内)	底径(内)	器高(厚)	重量	内面	外面			
H 1	1	須恵器	環	14.3	8.8	4.0	—	口クロ	底面ヘラナリ・手持ちヘラナリ			
	2			12.2	2.4	3.7	—	口クロ	底面ヘラナリ			
	3			14.0	7.0	4.2	—	口クロ	底面ヘラナリ			
	4			14.8	8.4	4.4	—	口クロ	底面ヘラナリ・手持ちヘラナリ			
	5			12.2	7.8	3.3	—	口クロ	底面ヘラナリ			
	6	土師器	環	14.5	—	4.9	—	ミガキ	ミガキ	内面黒色処理		
	7			12.2	—	3.4	—	ミガキ(暗文)				
	8			13.0	—	3.6	—	ミガキ(暗文)				
	9			14.4	—	4.1	—	ミガキ(暗文)				
	10			22.4	—	(29.4)	—	ヘラナリ	口縁口ナデ・底面ヘラナリ			
	11			16.6	—	(9.9)	—	ヘラナリ	口縁口ナデ・底面ヘラナリ			
	12			土製品	紡錘車	6.0	—	3.5	140.2	孔径0.9cm		1/3で図示
	13					石製品	磁石	13.0	4.6	2.3	260.6	
	14					9.0	4.0	3.5	233.4			
	15					紡錘車	4.0	—	1.9	26.6	孔径0.5cm	
	16	雑物	環	23.5	21.0	14.0	10.34kg	孔径12.5cm			1/6で図示	
	17			13.2	5.6	3.8	391.0				写真図版で図示	
	18			11.0	4.6	3.1	210.7				17~25の9点が伴塚址	
	19			13.9	5.2	3.1	186.6				南東部分床直上から出土	
	20			15.7	6.5	1.8	304.9					
	21			11.2	4.4	2.4	322.3					
	22			10.6	6.1	3.2	311.8					
	23			11.1	4.5	3.9	354.6					
	24			16.0	5.7	3.9	496.1					
	25			11.8	5.2	2.1	227.3					
	26			12.0	4.5	2.8	288.3					
	27			15.8	5.9	2.8	375.8					
	28			13.1	4.3	2.0	220.8					
	29			13.8	3.8	2.1	199.5					
	30	13.2	4.7	3.7	401.2							
D 2	1	土師器	環	13.8	—	(5.6)	—	ミガキ(暗文)	ミガキ			

### 第3章 まとめ

今回の調査で確認されたH1号住居址はその出土遺物の様相から奈良時代、8世紀前半にあたるものと思われる。過去本遺跡周辺で発掘された四ツ塚遺跡Ⅰ・Ⅱ、供養塚遺跡Ⅰでは7世紀末から8世紀第Ⅰ四半期にあたる住居址が認められており、四ツ塚遺跡Ⅰおよび供養塚遺跡Ⅰで確認された住居址と供養塚遺跡ⅡのH1号住居址はほぼその年代を同じくする。

本遺跡周辺では、まず遺跡南方を流れる香坂川に面した台地上に古墳時代末の集落が営まれ、その後奈良時代となると台地の北側に生活域を移転、あるいは新たに形成されたという集落址の変遷がこれまでの調査によって分かっている。これまで調査された範囲の中で最も南側に位置する四ツ塚遺跡Ⅱにおいてのみ7世紀末の住居址が認められ、それより北側に位置する四ツ塚遺跡Ⅰ、供養塚遺跡Ⅰにおいては8世紀第Ⅰ四半期にあたる住居址のみが確認されるからである。今回の調査によって確認された住居址は、四ツ塚Ⅰ、および供養塚Ⅰの奈良時代住居址と同時期に存在し集落を形成していたものであり、戸坂遺跡群内において奈良時代の集落が台地の南側縁辺より北側に展開する事をさらに裏付ける証左と言えるであろう。

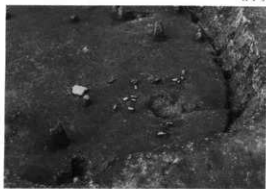


第8図 供養塚遺跡Ⅱ周辺遺跡区 (1:2000)





H1号住居址(南より)



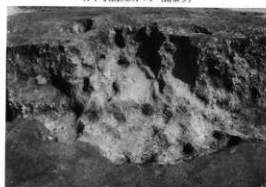
細み物石土状況(南より)



H1号住居址カマド(南より)



H1号住居址廻り方(南より)



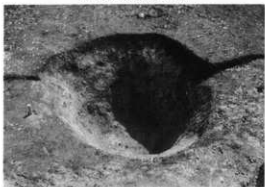
H1号住居址カマド廻り方(南より)



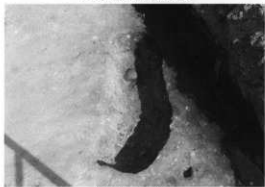
F 1号竪立柱建物址 (南より)



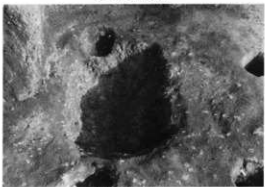
F 2号竪立柱建物址 (西より)



D 1号土坑 (北より)



D 2号土坑 (西より)



D 3号土坑 (西より)



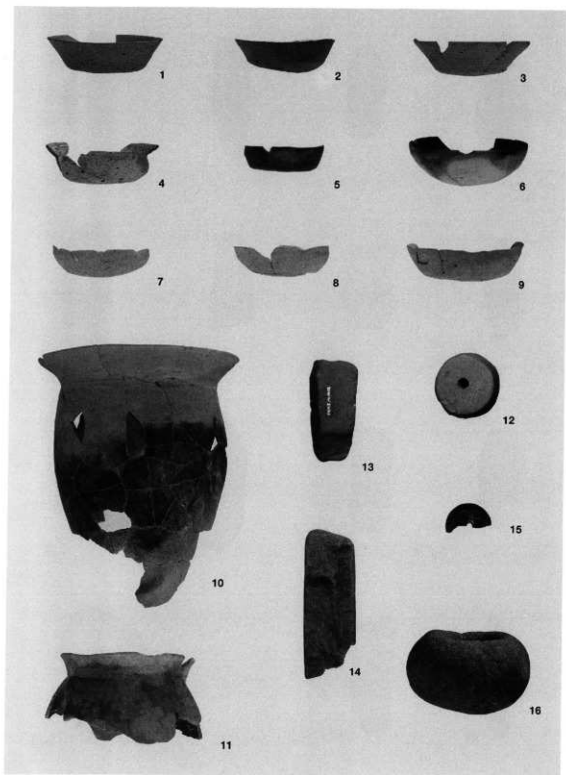
D 4号土坑 (西より)



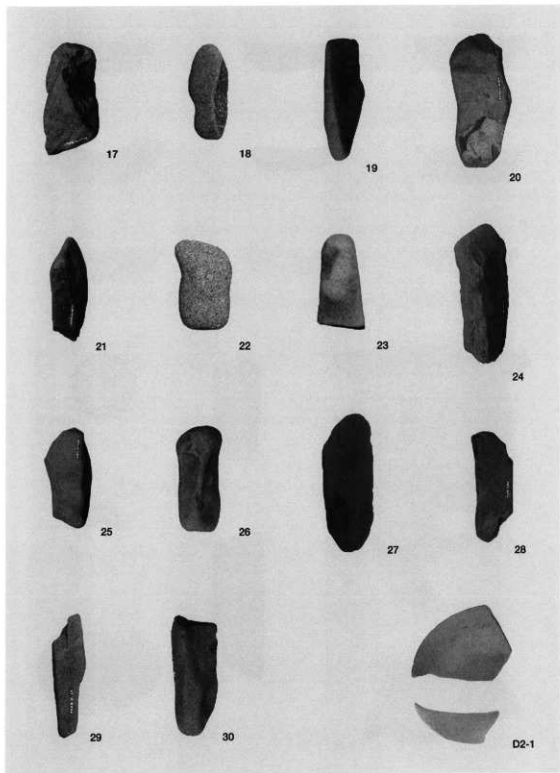
供養塚遺跡互並景 (南西より)



調査風景



H 1号住居址 出土遺物



H 1号住居址・D 2号土坑 出土遺物

---

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第114集

供養塚遺跡Ⅱ

2004年3月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒385-8501 長野県佐久市大字中込 3056

（文化財課

〒385-0006 長野県佐久市大字志賀 5953

TEL 0267-68-7321

）

印刷所 株式会社 機くいちい

---

## 佐久市埋蔵文化財調査報告書

- 第 1 集 『金井城址』  
 第 2 集 『市内遺跡発掘調査報告書 1990』  
 第 3 集 『石附宮址Ⅲ』  
 第 4 集 『大ふけ遺跡』  
 第 5 集 『立科F遺跡』  
 第 6 集 『上曾根遺跡』  
 第 7 集 『三貫畑遺跡』  
 第 8 集 『藤の下遺跡』  
 第 9 集 『国道 141 号線関係遺跡』  
 第 10 集 『聖原遺跡Ⅱ』  
 第 11 集 『赤座屋外遺跡』  
 第 12 集 『若宮遺跡Ⅱ』  
 第 13 集 『上山道跡Ⅱ』  
 第 14 集 『粟毛坂遺跡』  
 第 15 集 『野馬久保遺跡』  
 第 16 集 『石並城跡』  
 第 17 集 『市内遺跡発掘調査報告書 1991』  
     (1月～3月)
- 第 18 集 『西曾根遺跡』  
 第 19 集 『上芝宮遺跡』  
 第 20 集 『下堰端遺跡Ⅲ』  
 第 21 集 『金井城跡Ⅲ』  
 第 22 集 『市内遺跡発掘調査報告書 1991』  
 第 23 集 『南上中原・南下中原遺跡』  
 第 24 集 『上堰端遺跡』  
 第 25 集 『上久保田向遺跡Ⅳ』  
 第 26 集 『藤塚与墳群・藤塚Ⅱ』  
 第 27 集 『上久保田向遺跡Ⅲ』  
 第 28 集 『曾根新城Ⅴ』  
 第 29 集 『臨村遺跡B 山法師遺跡B』  
 第 30 集 『市内遺跡発掘調査報告書 1992』  
 第 31 集 『山法師遺跡A 興村遺跡A』  
 第 32 集 『東ノ割』  
 第 33 集 『聖原遺跡Ⅶ 上曾根遺跡Ⅰ  
     前藤部遺跡 2』  
 第 34 集 『西一本柳遺跡Ⅰ』  
 第 35 集 『市内遺跡発掘調査報告書 1993』  
 第 36 集 『蛇塚B遺跡Ⅲ』  
 第 37 集 『西一本柳遺跡Ⅱ 中西の久保遺跡Ⅰ』  
 第 38 集 『南下中原遺跡Ⅱ』  
 第 39 集 『中屋敷遺跡』  
 第 40 集 『寺畑遺跡』  
 第 41 集 『曾根新城遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ  
     上久保田向遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ  
     西曾根遺跡Ⅱ・Ⅲ』
- 第 42 集 『寄山』  
 第 43 集 『権現平遺跡・池端遺跡』  
 第 44 集 『寺浜遺跡』  
 第 45 集 『市内遺跡発掘調査報告書 1994』  
 第 46 集 『瀨り遺跡』  
 第 47 集 『上芝宮遺跡Ⅴ』  
 第 48 集 『池端城跡』  
 第 49 集 『板々井之宮遺跡』  
 第 50 集 『藤塚遺跡Ⅲ』  
 第 51 集 『寺中遺跡 中屋敷遺跡Ⅱ』  
 第 52 集 『坪の内遺跡』  
 第 53 集 『内正坊遺跡Ⅱ』  
 第 54 集 『市内遺跡発掘調査報告書 1995』  
 第 55 集 『番屋前遺跡Ⅰ・Ⅱ』
- 第 56 集 『聖原遺跡Ⅹ』  
 第 57 集 『高師町遺跡Ⅱ』  
 第 58 集 『下虫穴遺跡Ⅰ』  
 第 59 集 『市内遺跡発掘調査報告書 1996』  
 第 60 集 『曾根城遺跡Ⅱ』  
 第 61 集 『初地遺跡』  
 第 62 集 『野馬久保遺跡Ⅱ』  
 第 63 集 『西人久保遺跡Ⅲ』  
 第 64 集 『梨の木道跡Ⅳ』  
 第 65 集 『中宿遺跡』  
 第 66 集 『中西ノ久保遺跡Ⅱ 仲田遺跡 寺畑遺跡Ⅱ』  
 第 67 集 『供養塚遺跡』  
 第 68 集 『前藤部遺跡』  
 第 69 集 『高山遺跡Ⅰ・Ⅱ』  
 第 70 集 『観音堂遺跡』  
 第 71 集 『市内遺跡発掘調査報告書 1997』  
 第 72 集 『市道遺跡Ⅱ』  
 第 73 集 『西一本柳Ⅲ・Ⅳ』  
 第 74 集 『五甲田遺跡』  
 第 75 集 『八風山・斗斗代』  
 第 76 集 『南近津遺跡』  
 第 77 集 『番屋前遺跡Ⅲ』  
 第 78 集 『蛇塚遺跡 蛇塚古墳』  
 第 79 集 『四ツ塚遺跡Ⅰ』  
 第 80 集 『四ツ塚遺跡Ⅱ』  
 第 81 集 『業師寺遺跡』  
 第 82 集 『市内遺跡発掘調査報告書 1998』  
 第 83 集 『下堰端遺跡Ⅳ』  
 第 84 集 『梅名平遺跡』  
 第 85 集 『柳堂遺跡』  
 第 86 集 『市内遺跡発掘調査報告書 1999』  
 第 87 集 『宮添遺跡』  
 第 88 集 『上曾根遺跡』  
 第 89 集 『川原端遺跡』  
 第 90 集 『梨の木道跡』  
 第 91 集 『西一本柳・中長塚・松の木道跡』  
 第 92 集 『辻の前遺跡Ⅱ・中仲田遺跡Ⅱ』  
 第 93 集 『入高山遺跡』  
 第 94 集 『聖石遺跡』  
 第 95 集 『市内遺跡発掘調査報告書 2000』  
 第 96 集 『上木戸遺跡』  
 第 97 集 『久福平遺跡』  
 第 98 集 『深根Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』  
 第 99 集 『中道遺跡Ⅱ』  
 第 100 集 『野沢館跡Ⅲ』  
 第 101 集 『深福論跡Ⅳ』  
 第 102 集 『内正坊遺跡Ⅴ』  
 第 103 集 『聖原 第1分冊』  
 第 104 集 『石石遺跡Ⅲ』  
 第 105 集 『曾根城遺跡Ⅲ』  
 第 106 集 『臨村遺跡Ⅱ』  
 第 107 集 『聖原 第2分冊』  
 第 108 集 『市内遺跡発掘調査報告書 2001』  
 第 109 集 『西一本柳遺跡Ⅵ』  
 第 110 集 『佐久平駅周辺土地区画整理事業』  
 第 111 集 『上ノ城遺跡』  
 第 112 集 『西赤座遺跡』  
 第 113 集 『西一本柳遺跡Ⅷ』  
 第 114 集 『供養塚遺跡Ⅱ』